

- これまで施行されていなかった子どもの甲状腺検査を行うことにより、ほぼ一定の率で甲状腺がんが見つかった。

細胞診の結果悪性ないし悪性疑いの割合（一次検査受診者に対し）

平成23年度検査結果 0.03%

平成24年度検査結果 0.04%

平成25年度検査結果 0.03%※暫定：二次検査が完了していない

第17回福島県「県民健康管理調査」検討委員会資料

- 福島の先行検査で見つかった甲状腺がんは放射線の影響とは考えにくいと思われる根拠
 - ・ 放射線による発がんリスクが高いといわれる、より年齢の低い方の発症が少くないこと
 - ・ 福島での被ばく量が、発がんリスクを増加させるほど高くないこと
 - ・ 地域別に線量の差が知られているにもかかわらず、がん発生の地域差があまり見られないこと（暫定データによる）

放射線の影響をみるためには、長期間経過を見守る必要があります
皆様の健康管理のためにもぜひ継続してご受診ください

現在、福島県で行われている甲状腺検査で見つかった甲状腺がんは、福島第一原子力発電所事故による放射線の影響とは考えにくいとされています。背景としては

- ・ 放射線に対する感受性が高い被ばく時低年齢（0～5歳）の方に甲状腺がんの発症者がいないこと
- ・ 福島での甲状腺被ばく線量がチェルノブイリと比べて低いと推定され、発がんリスクを増加させるほどではないと見られていること
- ・ 地域別に線量の差が知られているにもかかわらず、細胞診による悪性ないし悪性疑いの方の割合に地域差が見られないこと

などが挙げられます。

しかし、放射線影響をみるためには、今後も長期にわたり経過を見る必要があります。これからも継続して検査を受診することが必要です。

本資料への収録日：2015年3月31日

関連 Q&A

- ・ 1章 QA37 子どもの甲状腺がんのリスクはどれくらいですか
- ・ 6章 QA35 チェルノブイリでは子どもの甲状腺がんが多く発症した、と聞きますが、福島県は本当に大丈夫なのでしょうか